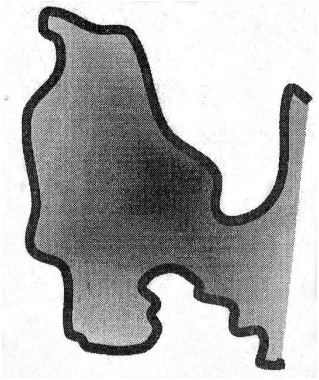
～心豊かで活力あるまちづくり～

2012年3月1日発行



# 清里 まちづくり No.24

企画・編集・発行 清里まちづくり協議会 事務広報部会

清里まちづくり協議会事務局
〒370-3573 前橋市青梨子町339 清里公民館内
TEL251-9005 FAX255-0341
http://www.city.maebashi.gunma.jp/ まえりあ清里 で検索

## そば収穫祭

**【そば打ち部会長 松岡好一】**

●ソバの作付をふりかえって！

公民館活動の一環として始まった「そば打ち部会」も、清里まちづくり協議会の中に参加して活動している。現在では、会員のみなさんの意欲と努力により、和気あいあいの部会を毎月行っている。今年度（平成23年）はソバ〔実や花の時はカタカナ表記〕の作付をすることになり、会員各位は大変多忙な一年だった。

ソバ播きをするには、畑を用意しなければならないが、幸い、松下博寿氏が畑を貸してくれることになり、下ごしらえも全部していただいた。おかげで種播きもすぐに始められた。

平成23年8月28日、早朝より子育連の親子、役員、自治会役員、そば打ち部会のメンバーなど大勢の人たちでソバ播きが始まり、子どもたちの元気に助けられながら無事作業は終了した。そして・・・小さな若芽が顔を出し、大きな葉をつけ、やがて白い花が咲き、実をつける。でも、今年は台風の雨に荒らされ心配していたが、なんとか実がつき、ほっとした。

11月15日のソバ刈り、27日の脱穀へとたどりついた。脱穀では、子どもたちが昔の脱穀機、通称「ガーコン・ガーコン」を一生懸命踏んで、ソバの実落としに面白がって参加した。

「ガーコン、ガーコン」脱穀の様子

●収穫祭のにぎわいに感謝して！

12月23日、朝7時に公民館へ集合して、そば打ち方の人たちがめん打ち台五台で作業開始、おいしいそばを食べてもらおうと各人で腕を競う。めん打ち会場は緊張の一瞬。地区の人たちには、「そば〔麺になったら、ひらがな表記〕を食べに来て下さい」と回覧が回っているが、どの位の人たちが来てくれるのか心配しながらも、今はただ「打つだけ」。そば打ち部会の人たちも全員集合し、それぞれの部署に分かれての作業。会場づくり、机を並べたり、ガス台の設置やイスの配置、薬味の準備と各人が大忙しだ。午前10時半頃、お客さんの第一陣として、市長と市農政部の人たち。さあ大変、ユデ方や盛り付けの人たちは、飛び歩いての準備。その後、地区の人たちも集まり始め、注文が多くなる。打ち方は、そろそろ疲れてくる。でもまだ、もう少し打たないと足りないようだ。もう一度、気を引き締めて打つ。子どもたちや地区の人たちが「美味しかったよ」と声を掛けてくれるのが一番のうれしさだ。大変なにぎわいも、そば打ち部会の人たちの昼食となり、無事終了となった。

そば収穫祭（忙しい盛付け）

そば収穫祭（そば打ち方）

そば収穫祭（美味し～い）

会員の声

◇**「大変な一年だった。また、とても楽しい一年だった。」**

◇**「数多く打つ機会があって、腕が上がった。」**

◇**「ライバルの腕が上がったので、もう少し打つ回数を多くしよう。」**

会員の技術向上には大変刺激のよい一年でした。これからも「そば打ち部会」に応援をよろしくお願い致します。

## 「地域づくり交流フェスタ２０１２」の開催決まる

**【事務局次長　松下　均】**

前橋市の地域づくり団体の交流・発表の場である「地域づくり交流フェスタ２０１２」の開催が決定しました。

フェスタの詳細については今のところ未定ですが、日時は平成24年6月23日（土）あるいは24日(日)のうち、1日または2日間、会場は前橋市総合福祉会館の予定です。年々内容が充実してきていますが、今年はさらにグレードアップしたいと考えています。

## 連載　清里の歴史

### 江戸時代の上青梨子村

**【事務広報部会長　松下熙雄】**

古くは高井の郷青木の荘と称されていた。元和元年（１６１５）から前橋藩（酒井河内守重忠）、寛延2年（１７４９）には前橋藩（松平大和守朝矩）の領地であったが、宝永年間（１７０４）に旗本戸田・松前・花房の領地となった。慶応4年（１８６８）にはまた松平氏の所領となり、その後群馬県となった。「寛文郷帳」によれば田方27石5斗余、畑方２０４石1斗余とあり、うち１０１石9斗余は板倉内膳正分、90石1斗余は戸田備後守分、19石7斗余は花房宗右衛門分、19石7斗余は松前半助分であった。戸数は60戸、人口は男１２９人、女１３０人で総計２５９人であった。牡馬8頭とある。『郡村誌』（明治12年頃）によれば「水利ヲ得ズ、稼田ナク唯陸圃アリ、運輸便ナラズ随テ薪炭ニ乏シ」とある。物産にして繭64石8斗、生糸52貫１７０匁、生絹28反、太織２２０反を近くの町で売っていた。

民業は「男農耕ヲ業トスルモノ55戸、工業2戸、雑業2戸、女養蚕製糸紡績60人」とある。

淡島様

社寺は、淡島社と神明宮があり、祭神は大日霎命、天照皇大神、少彦名命などといわれ、祭日は正月3日、3月3日、10月9日であった。社殿は安永5年（１７７６）の建築であったが、その後社殿の老朽に伴い、大正3年（１９１４）に境内の用材を使用して建設された。昔から縁結びまたは子育てに特別なご利益があり、女性の守護神として沢山の善男善女の参詣があったが、この建設を機に淡島社と神明宮を合祀して、名称は大木神社と改称された（「清里村役場史料」）。しかし、昭和35年（１９６０）に氏子の総意によって再び淡島神社と改称された。

淡島神社の南には、曹洞宗瑞雲寺がある。伝承では、江戸時代の初期にあたる寛永年間（１６２４～４３）に、総社町元景寺第三世瑞雲和尚が同寺の隠居寺または新宅寺として建設、開基したといわれる。

また、この地区では珍しい民間信仰として、百万遍の数珠がある。約20mの一本の麻縄に、子どもの握り拳ほどもある桐の輪をいくつも通し、その所どころに大人の拳ほどの輪を混ぜて両端で結び合わせる。毎年7月17日に淡島神社の境内や町内のいくつかの辻で町民によって「百万遍の辻念仏」が行われる。むしろを敷き、その上に座って「ナンマイダー・カタマメダー」と掛け声をかけながら、この数珠を隣の人から隣へと廻わして、疫病の流行や悪霊を町外へ追い払う行事である。榛名山の東南麓では昔からさかんに行われていた。

上青梨子町「百万遍」